



日本赤十字社

O *noda* *R* *ed* *C* *ross*

2016

6月号
Vol. 227



3 班
(小野田 1 班)

熊本地震災害救護班被災地へ

6 班

(小野田 2 班)



病院の理念

- (1) 私たちは、「人道・博愛・奉仕」の赤十字精神を基本に生きていることの価値と喜びを追求する病院づくりをします。
- (2) 私たちは、思いやりの心を忘れず、皆様の健康へのみちを全力で支援します。
- (3) 私たちは、地域に貢献し、安心と信頼が得られる社会をめざします。

基本方針

- (1) 患者さまならびに職員の生きがいを尊重し、権利を擁護する。
- (2) 患者さまのプライバシー保護に努める。
- (3) 療養病棟では、高齢・認知症・難病等の患者さまに配慮する。
- (4) 医療社会事業を通じて、地域住民の皆さまの健康づくりを支援する。
- (5) 「健診・救急・高齢者医療」を三本柱とし、地域の保健・医療・福祉機関との連携を推進する。
- (6) 医療の質の向上と安全管理に努め、全人的医療をめざす。
- (7) 医療記録を適正に管理し、規定にしたがって開示する。

<http://www.onoda-redcross-hosp.jp>

～熊本地震救護活動第 3 班報告～

(4 月 24 日～26 日)

4 月 14、16 日に熊本で震度 7 を記録する地震が発生しました。それを受け、4 月 24 日（日）から 26 日（火）まで、日本赤十字社山口県支部救護班第 3 班として出動し、活動をしてきました。写真とともにその時の状況をご紹介します。

24 日のお昼ごろ、日本赤十字社熊本県支部の災害対策本部に到着。



(災害対策本部前)

その後、19 時にミーティングに参加。



(ミーティングの様子。後ろのスクリーンではテレビの被災状況報道が流れています)

本部前には各県支部やボランティアからの物資が集まっていました（山口県からの物資もありました）。

当初の予定では益城町総合体育館の救護所で活動する予定でしたが、予定変更で、初日は熊本赤十字病院の救急外来の支援に入ることになりました。

ライフラインは各地でほぼ回復していること、熊本赤十字病院の救急外来数が若干増加していること、車中泊の被災者が多くエコノミー症候群の対策が必要であることなどが分かりました。

20 時より予定どおり救急外来の支援に入ります。



(テントと車中泊で生活されています。)

20 時～翌朝 8 時まで活動を行い、69 件の受け入れがありました。おおよそ 10 分に一人の患者を受け入れたことになります。しかし、熊本赤十字の事務の方のお話によると「少ない方ですよ。皆さん落ち着いてきたんでしょね。」とのことでした。

休息をとり、26日（火）の朝6時より、益城町総合体育館での救護活動に入りました。



（益城町救護所前の様子）



（救護テント内で準備する看護師）

14時まで活動を行い、52名の患者に対応。救護所のトイレが不衛生（水が流せないのです）なため、ノロウイルスの感染が心配されていました。実際に嘔吐の患者さんが1名救護所に来られました。

また、この日「ニュース ZERO（日本テレビ）」の取材があり、当院の佐藤医師が取材を受けました。当日の夜放映されたのでご覧になった方もいらっしゃるのではないでしょうか？

ライフラインや物流はほぼこの時点で回復しつつありました。しかし被害は凄まじく、とりあえずの生活は出来るが、元の生活に戻るにはかなりの月日が必要だろうと感じました。

～熊本地震救護活動第6班報告～

（5月18日～20日）

5月18日

日本赤十字社熊本県支部のミーティングに参加し、医療の需要は少しずつだが終息に向かっていること、ストレスに起因する病気も多いことなどを確認しました。

そして、熊本県支部の要請で、益城町総合体育館へ向かうことになり、その道中に、沢山の建物が倒壊しているのを目の当たりにし震災の凄まじさを感じました。

また、それでも「頑張って復興しよう！」という地元の方の気概も感じました。



（体育館近くの建物）

益城町総合体育館到着

現場に到着し、すぐに救護所内の設営準備に入るが、既に救護所の外で待っておられる被災者の方がおられ急ピッチで準備を整えました。

この日は、10時30分～20時まで活動を行い28名の患者さんを受け入れました。

また、途中NHKの取材があり、当院の長岡医師が取材を受けました。他にも、巡回診療によりエコノミークラス症候群対策の弾性ストッキングが必要な方が多数おられることも分かりました。



(NHKの取材に応じる長岡医師)

5月19日

この日も、10時30分～20時まで活動を行い昨日と同じく28名の患者さんを受け入れました。

昨日の巡回診療で不足していた、弾性ストッキングの確保を行い巡回診療へと赴きました。この日の巡回で対象者が20名おられ当院の看護師長が一人一人にストッキングの履き方や効果、注意点を細やかに説明しておられました。

また、診療した患者さんの中には、長期化する避難所生活や行政への不安などにより避難者の不満や不安などがピークに達し、かなりの精神的なストレスを抱えて救護所に来られる方もおられ、こころのケアの必要性を感じました。



(熊本県支部救護班への引継ぎ中)

5月20日

この日は10時30分～12時まで次の熊本県支部救護班への引継ぎを行いながら2班合同での救護活動を行いました。

その後、熊本県支部へ活動終了の報告を行い帰途に就きました。

今回の震災では広範囲に被害が及び、多数の死傷者が出ています。また、未だに数多くの避難者の方々が不自由な生活を強いられており、日赤だけでなく自衛隊や行政、その他の機関と連携をとり被災者の方々が不自由無く暮らせるように早期復興をしていかなければならないと感じました。

最後に、熊本で被災された方々が1日でも早く復興されるようお祈りいたします。



(熊本県支部救護班との合同診療)

一日赤十字と看護の日

ふれあいフェスタ in おのだサンパーク

5月15日（日）に日赤山口県支部・赤十字血液センター・小野田赤十字病院の合同で「1 日赤十字と看護の日ふれあいフェスタ」をおのだサンパークで開催しました。

これは、5月1日の日本赤十字社の創立記念日と5月12日の看護の日に合わせた毎年恒例の行事で、平成9年から毎年開催しており、今回で20回目となります。



そのほか日本赤十字社山口県支部による、胸骨圧迫の方法やAED（自動体外式除細動器）の体験コーナー・使用実演やパネル展示、山口県血液センターによる献血も行われました。

当日ご来場いただいた皆様、誠にありがとうございました。



小野田赤十字病院による看護の日行事では、ストレス度測定、体脂肪測定、血圧測定、相談コーナー（健康・医療・看護・介護・介護保険）、かわいい看護師・お医者さん・救護員になって記念撮影を行いました。



看護週間にあわせて ティッシュくばり

5月12日は看護の日です。その日を含む週を看護週間として、全国で看護に関する啓発活動が行われています。当院でもその活動の一環として外来患者様へティッシュをお配りしました。

皆様笑顔で受け取られていました。





外来診療担当医表

(都合で交代・休診することがあります。ご了承ください。)

曜 日			月	火	水	木	金
診療科(受付時間)							
内 科	8:30~ 11:30	1診	都野 公一	島袋 明子	都野 公一	野垣 宏	都野 公一
		2診	南野 巧真	和田 一成	和田 一成	徳永良洋 (8:30~16:30) (基本予約制)	島袋 明子
		3診				周布 陽子	
外 科	8:30~11:30		長岡 知里	佐藤 智充	水田 英司 中尾 光宏	佐藤 智充	長岡 知里
皮膚科	13:00~16:00						沖田 朋子
神経内科	14:00~16:00						野垣 宏
	14:00~15:30 第1週~第3週						
	9:00~11:30 第4週	川井 元晴					
神経科	8:30~11:30			渡邊 愛			
眼 科	8:30~11:30			萩田 勝彦			萩田 勝彦
整形外科	14:00~15:30	6月9日(木)、23日(木)					

6月 行事予定

- 2日 ANA すずらん贈呈
- 5日 日本列島クリーン作戦
- 8日 宇部奇術クラブ銀友会
池坊芳心会(老健)
- 11日 ふれあい運動会
- 13日 民児協(赤崎校区)
七夕飾り
- 15日 防火訓練
- 22日 花柳流有螺次の会
(老建)
- 25日 お話しボランティア(老建)
- 29日 音夢の会(二胡の演奏)

先月のボランティア(3月21日~4月20日)

4月22日 お話相手ボランティア(金子紀恵)
4月27日 山口マジシャンズクラブ(阿野正義様)
5月9日 民生児童委員協議会(本山校区)(3名)

5月11日 藤田流華扇会 (6名)
5月11日 池坊芳心会 (5名)

ボランティアの皆様、ありがとうございました。

*** 編集後記 ***

- ・改めて防災グッズの確認と非常食の賞味期限確認・買い足しをしました。自然に対して人間は微力なのかもしれないが準備だけはしておこうと思う。益成
 - ・だんだん蒸し暑くなりますが、熊本地震で被災された方の体調が心配になります。坂本
 - ・寝る前にいつも読書をするのですが最近は一、二行読むとダウンしてしまいます。内容がなかなか進みません。國本
 - ・トホホ・・・藤田
 - ・この度広報委員を交代することになりました。皆様のおかげで3年間楽しく広報業務に当たらせていただきました。ありがとうございました。木村
- 熊本地震救護活動へ赴きました。実際に被災地へ行き沢山の建物が倒壊しているのを目の当たりにし震災の凄まじさを感じました。